

空堀川上流雨水幹線（第1工区） 大規模雨水処理施設整備事業計画

(様式1)

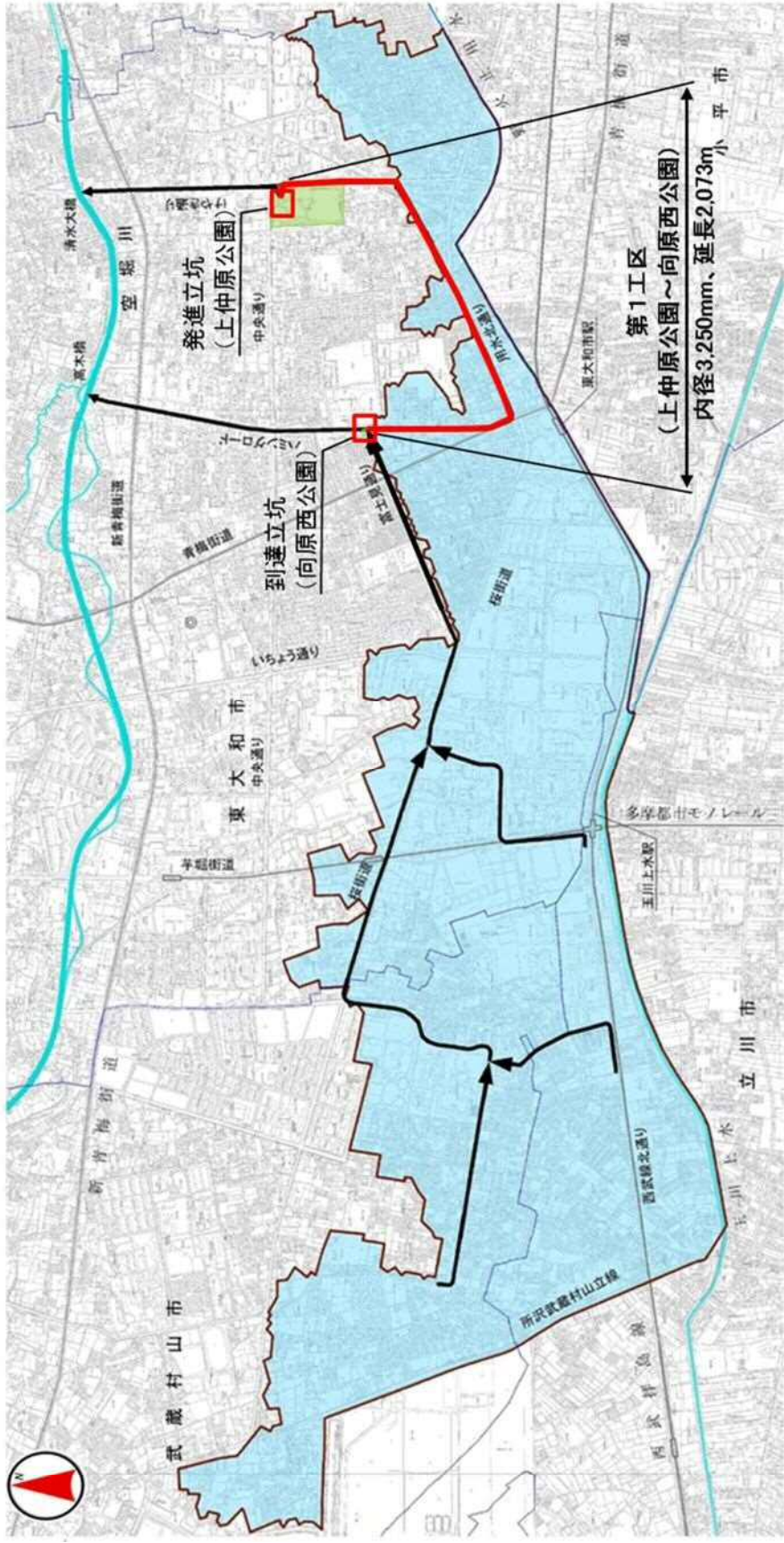
項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	<p>空堀川上流域南部地域（東大和市、武蔵村山市、立川市）は、大雨による浸水被害が発生しているものの、雨水の放流先となる河川などがなく、市単独での雨水排除が困難である。このため、複数市にまたがる広域的な雨水排除施設が必要となる。</p> <p>都は、上記地域においてたびたび浸水被害が発生していたことから、東大和市、武蔵村山市、立川市と連携し、浸水被害の軽減に向けて取り組んでおり、流域下水道雨水幹線を整備することとしている。</p> <p>本事業は、新たに整備する空堀川上流雨水幹線のうち、東大和市内の上仲原公園～向原西公園を結ぶ区間（第1工区）の整備を行うものである。</p>
整備目標	<p>① 本計画における対象降雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本計画における対象降雨：50mm/h 降雨に加え、計画規模を超える降雨に対してもハード・ソフトの両面から対応 ・ 目標とする理由：50mm/h 降雨に対応するハード整備を基本に進めるとともに、計画規模を超える降雨に対しても安全・安心を確保することとしているため。(なお、流出解析シミュレーションより、65mm/h 降雨に対応できることを確認している。) ・ ハード整備による整備水準の目標：50mm/h <p>② 目標設定</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 生命の保護の観点：ハード整備の推進とともに的確な情報提供などにより都民の生命を保護する。 ii) 都市機能の確保の観点：ハード整備の推進とともに的確な情報提供などにより、鉄道や道路などの都市機能を確保する。 iii) 個人財産の保護の観点：ハード整備の推進とともに的確な情報提供などにより浸水による財産被害を防止する。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	・未策定（市にて今後作成予定）			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	流域下水道雨水幹線（空堀川上流雨水幹線（第1工区））の整備 ・内径 3,250mm、延長 2,073m ・排水面積 約 90ha
			下水道管理者以外	_____
	ソフト対策	下水道管理者	・浸水予想区域図の公表 ・ホームページによる降雨情報（東京アメッシュ）の提供	
		下水道管理者以外	_____	

年度計画（百万円）

名称	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	計
流域下水道雨水幹線の整備	1,000	5,000	800	0	6,800
計	1,000	5,000	800	0	6,800

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<p data-bbox="338 306 577 340"><事業評価の内容></p> <p data-bbox="338 351 1136 385">浸水被害の軽減便益（年あたり便益）：1,612 百万円が削減される。</p> <p data-bbox="338 396 507 430">B/C：5.0</p> <ul data-bbox="338 486 1264 519" style="list-style-type: none"> ・流域下水道雨水幹線を整備することで、大雨による浸水被害の解消を行う。
放流先河川との調整状況	<ul data-bbox="338 575 609 609" style="list-style-type: none"> ・河川管理者と協議中
その他	



凡例

記号	名称
—	行政界
■	空堀川排水区
→	流域雨水幹線ルート案
—	施工予定管渠
□	発進立坑、到達立坑